

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月12日

【四半期会計期間】 第72期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社N F Kホールディングス

【英訳名】 NFK HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 関口 陽介

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045(575)8000(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部 神戸 義裕

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市鶴見区尻手二丁目1番53号

【電話番号】 045(575)8000(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部 神戸 義裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第3四半期 連結累計期間	第72期 第3四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	2,340,563	2,164,768	3,121,602
経常利益 (千円)	227,593	92,309	298,411
四半期(当期)純利益 (千円)	224,878	89,875	332,242
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	225,570	105,158	331,681
純資産額 (千円)	2,750,121	2,930,678	2,856,232
総資産額 (千円)	3,975,202	4,497,687	4,073,572
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	7.32	2.93	10.82
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	69.2	65.2	70.1

回次	第71期 第3四半期 連結会計期間	第72期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	1.87	0.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融緩和政策などにより円高の是正・株価の上昇が継続する中、個人消費や企業の輸出・生産動向等に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、消費税増税による消費低迷への懸念や新興国経済の減速等の世界経済下振れ懸念、原材料価格の上昇など、景気下振れリスクは依然として存在しており、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、平成23年8月に策定した「13中期経営計画」に基づき、国内外既存顧客への対応の強化、低燃費・低環境負荷を実現する戦略的商品の集中的拡販、新興国への積極的な営業活動に努めるなどの様々な施策を実行してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高21億6千4百万円（前年同四半期比7.5%減）、営業利益1億5百万円（前年同四半期比52.2%減）、経常利益9千2百万円（前年同四半期比59.4%減）、四半期純利益8千9百万円（前年同四半期比60.0%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

工業炉燃焼装置関連事業

工業炉燃焼装置関連事業につきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は21億6千3百万円（前年同四半期比7.5%減）、営業利益は4千7百万円（前年同四半期比70.5%減）となりました。

その他の事業

その他の事業につきましては、各子会社からの不動産賃貸収入、経営指導料等が収益の中心となっております。当第3四半期連結累計期間の売上高は2億1千9百万円（前年同四半期比1.0%減）、営業利益は1億9千4百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて10.4%増加し、44億9千7百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて10.3%増加し、34億1千万円となりました。これは現金及び預金の増加1億2千5百万円、受取手形及び売掛金の増加9千万円、仕掛品の増加7千3百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて10.9%増加し、10億8千7百万円となりました。これは、日本ファース燃烧技術研究所設立による建物及び構築物の増加2千5百万円、機械装置及び運搬具の増加6千5百万円などによるものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて47.4%増加し、11億8百万円となりました。これは大型案件に係る短期借入金の増加4億7百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1.5%減少し、4億5千8百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2.6%増加し、29億3千万円となりました。これは四半期純利益8千9百万円の計上などによるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1千7百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	118,610,000
計	118,610,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,713,342	30,713,342	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	30,713,342	30,713,342		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	30,713,342	-	2,131,532	-	40,280

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,711,100	307,111	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,042		
発行済株式総数	30,713,342		
総株主の議決権		307,111	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 N F K ホールディングス	神奈川県横浜市鶴見区尻 手二丁目1番53号	200		200	0.00
計		200		200	0.00

(注) 上記以外に自己名義所有の単元未満株式96株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人元和による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,598,908	1,724,031
受取手形及び売掛金	¹ 1,201,933	¹ 1,292,751
仕掛品	85,390	158,950
原材料及び貯蔵品	156,131	171,779
その他	51,122	62,680
貸倒引当金	813	-
流動資産合計	3,092,672	3,410,193
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	81,921	107,406
機械装置及び運搬具（純額）	5,262	70,502
土地	703,022	703,022
建設仮勘定	24,483	-
その他（純額）	6,048	8,487
有形固定資産合計	820,738	889,419
無形固定資産		
ソフトウェア	4,112	8,698
無形固定資産合計	4,112	8,698
投資その他の資産		
投資有価証券	106,777	144,049
破産更生債権等	30,650	30,200
その他	84,158	80,213
貸倒引当金	65,537	65,087
投資その他の資産合計	156,048	189,376
固定資産合計	980,899	1,087,494
資産合計	4,073,572	4,497,687

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	350,627	425,863
短期借入金	30,900	438,501
未払法人税等	22,819	5,161
賞与引当金	72,265	34,765
完成工事補償引当金	-	8,286
工事損失引当金	11,269	319
前受金	192,419	90,035
その他	72,180	106,034
流動負債合計	752,482	1,108,969
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	228,821	228,821
退職給付引当金	217,075	199,127
役員退職慰労引当金	16,750	18,833
その他	2,209	11,257
固定負債合計	464,856	458,039
負債合計	1,217,339	1,567,008
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,532	2,131,532
資本剰余金	40,280	40,280
利益剰余金	266,172	325,334
自己株式	195	195
株主資本合計	2,437,789	2,496,951
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,147	27,441
繰延ヘッジ損益	-	8,010
土地再評価差額金	414,296	414,296
その他の包括利益累計額合計	418,443	433,726
純資産合計	2,856,232	2,930,678
負債純資産合計	4,073,572	4,497,687

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	2,340,563	2,164,768
売上原価	1,665,862	1,569,107
売上総利益	674,700	595,660
販売費及び一般管理費	453,502	489,901
営業利益	221,197	105,759
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,167	2,645
仕入割引	1,119	814
持分法による投資利益	1,770	-
貸倒引当金戻入額	450	1,263
その他	2,208	971
営業外収益合計	7,715	5,694
営業外費用		
支払利息	871	2,975
持分法による投資損失	-	282
為替差損	295	15,778
その他	153	108
営業外費用合計	1,320	19,145
経常利益	227,593	92,309
特別利益		
保険解約益	18,782	3,770
特別利益合計	18,782	3,770
特別損失		
投資有価証券売却損	1,158	-
関係会社株式売却損	1,542	-
その他	73	-
特別損失合計	2,773	-
税金等調整前四半期純利益	243,602	96,079
法人税、住民税及び事業税	18,723	6,790
法人税等還付税額	-	585
法人税等合計	18,723	6,204
少数株主損益調整前四半期純利益	224,878	89,875
四半期純利益	224,878	89,875

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	224,878	89,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	691	23,293
繰延ヘッジ損益	-	8,010
その他の包括利益合計	691	15,283
四半期包括利益	225,570	105,158
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	225,570	105,158
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	21,089千円	1,484千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	12,064千円	17,802千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月13日 取締役会	普通株式	30,713	1.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	工業炉燃焼装置 関連事業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,338,313	2,250	2,340,563		2,340,563
セグメント間の内部売上高 又は振替高		219,017	219,017	219,017	
計	2,338,313	221,267	2,559,580	219,017	2,340,563
セグメント利益	160,550	196,065	356,615	135,417	221,197

(注) 1 セグメント利益の調整額 135,417千円には、セグメント間取引消去 2,117千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 133,299千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	工業炉燃焼装置 関連事業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,163,418	1,350	2,164,768		2,164,768
セグメント間の内部売上高 又は振替高		217,671	217,671	217,671	
計	2,163,418	219,021	2,382,440	217,671	2,164,768
セグメント利益	47,360	194,351	241,712	135,953	105,759

(注) 1 セグメント利益の調整額 135,953千円には、セグメント間取引消去 771千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 135,181千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	7円32銭	2円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	224,878	89,875
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	224,878	89,875
普通株式の期中平均株式数(株)	30,713,046	30,713,046

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

重要な訴訟案件等

当社元役員らに対する損害賠償請求について

平成22年3月期決算にて投資有価証券評価損として特別損失計上に至った匿名組合契約の締結に係る承認決議に関与した当時の取締役・監査役ら6名に対し、1億4千万円の損害賠償請求訴訟を平成23年9月14日に提起しておりました。本訴訟につきましては、平成25年10月22日に横浜地方裁判所より、当社の請求を棄却する判決が言い渡されましたが、当社はこの判決を不服として、平成25年11月1日付にて東京高等裁判所に控訴し、現在、係争中となっております。

(当社の業績に与える影響について)

本民事訴訟が当社業績に与える影響は現時点では明らかではありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

株式会社N F Kホールディングス

取締役会 御中

監査法人元和

指定社員
業務執行社員 公認会計士 塩 野 治 夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 由 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社N F Kホールディングスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社N F Kホールディングス及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。